

フィッチ、キャピタル・サーヴィシングのスペシャルサービサー格付を「CSS1-(JPN)」に据え置き

フィッチ・レーティングスー東京/香港ー2010年6月16日：

フィッチ・レーティングス（フィッチ）は、キャピタル・サーヴィシング債権回収株式会社（キャピタル）の商業モーゲージ・スペシャルサービサー格付を「CSS1-（JPN）」（CSS1 マイナス（JPN））に据え置いた。本格付は、キャピタルの豊富な経験を持つ経営陣およびアセットマネジャー、十分に統合が進んだ用途の広いサービシングシステム、包括的で整備されたリスク管理体制などの強みが維持されていることを反映している。

リーマン・ブラザーズおよび関連会社の資産売却の進捗にともない、2009年にキャピタルのサービシングポートフォリオは減少した。これをうけて、キャピタルは人員の削減や各種の経費削減策を実施するとともに、プライマリーおよびスペシャルサービシング部門のチーム編成および担当業務の見直しを行った。一方で、サービシング業務受託のための体制を強化したことにより、2010年に入って5月までの間に、キャピタルのサービシング業務の新規受託は順調に増加している。以上の結果、フィッチはリーマン関連のサービシングポートフォリオ縮小の影響は大部分緩和されていると見ている。フィッチでは、引き続き今後の受託状況の推移に注目していく。

キャピタルは、1999年に法務省より営業許可を受けサービシング業務を開始した。その後、CMBSの分野においてプライマリーおよびスペシャルサービシングを提供する有数の独立系サービサーとなっている。2009年12月末における取扱債権は、約16,700件、金額で1兆1,640億円（未回収元本残高ベース）に達している。

フィッチは、日本のプライマリー、スペシャル、マスターサービサーについて取扱債権の種類別に、最上位の1（「完全な承認（全般的に優秀なパフォーマンス）」）より5（「条件付き承認」）の五段階に分けて格付している。なお、各段階に対して、+（プラス）または-（マイナス）の符号を付ける場合があるが、これら+（プラス）または-（マイナス）の符号は、その段階の中でも相対的にレベルが高いことまたは低いことを示している。また、JPNの符号は日本のサービサー格付に付けられるが、当該格付が日本の法的、経済的、社会的環境と関連していることを示すものである。

適用格付基準：「日本のサービサー格付基準」（2009年9月4日付）および「ストラクチャー・ファイナンス・サービサーの包括格付基準」（2009年9月30日付）はフィッチのウェブサイトで公開されている（アドレスは日本語：www.fitchratings.co.jp、英語：www.fitchratings.com）。

キャピタルに関するサービサー格付分析レポート（日本語および英語）は、近日中にフィッチの日本語ホームページ及びグローバルウェブサイトに掲載される予定である。

（本稿は原文「Fitch Affirms Capital Servicing's Special Servicer Rating at 'CSS1-(JPN)」（2010年6月15日付）をもとに作成されています。）

照会先：上野 光宏（東京）電話：03-3288-2605、榊原 みどり 電話：03-3288-2670、工藤 仁章 電話：03-3288-2630

メディア照会先：尾崎 千夏（東京）03-3288-2679

さらなる情報については、弊社ウェブサイト www.fitchratings.com / www.fitchratings.co.jp（日本語）より入手可能です。

フィッチの全信用格付は、所定の制約および免責の対象となっています。弊社ウェブサイトから当該制約および免責事項をご覧ください（www.fitchratings.co.jp：「格付の定義」>「格付の概要」>「信用格付を理解する：利用と制約」）。さらに、格付の定義および利用規約は弊社のウェブサイト www.fitchratings.com / www.fitchratings.co.jp（日本語）に掲載されています。公表された格付、格付基準、格付手法も同サイトに常時掲載されています。フィッチの行動規範、守秘義務、利益相反、関連会社間のファイアウォール、コンプライアンスおよびその他の方針・手続き等も www.fitchratings.com 上の「Code of Conduct」でご覧いただけます。